

第20回日韓アジア未来フォーラム

「進撃のKカルチャー：新韓流現象とその影響力」

日 時： 2022年5月14日（土）午後3時00分～5時00分

方 式： Zoom ウェビナーによる

主 催： （公財）渥美国際交流財団関ログローバル研究会（SGRA）

共 催： （財）未来人力研究院（韓国）

フォーラムの趣旨：BTSは国籍や人種を超え、一種の地球市民を一つにしたコンテンツとして、グローバルファンダムを形成し、BTS現象として世界的な注目を集めている。一体BTSの文化力の源泉をなすものは何か。BTS現象は日韓関係、地域協力、そしてグローバル化にどのようなインプリケーションをもつものなのか。本フォーラムでは日韓、アジアの関連専門家を招き、これらの問題について幅広い観点から議論してみたい。日韓の基調報告をベースに討論と質疑応答を行う。日韓同時通訳付き

プログラム

《開会》午後3時

司会：金雄熙（キム・ウンヒ、仁荷大学教授）

【開会の辞】：今西淳子（いまにし・じゅんこ：渥美国際交流財団常務理事・SGRA代表）

第1部 講演

【報告1】「文化と政治・外交をめぐるモヤモヤする「眺め」」20分

講演：小針進（こはり・すすむ：静岡県立大学教授）

【報告2】「BTSのグローバルな魅力」20分

講演：韓準（ハン・ジュン：延世大学教授）

【休憩】5分

第2部 討論

【ミニ報告】「ベトナムにおけるKポップ・Jポップ」10分

チュ・スワン・ザオ（Chu Xuan Giao：ベトナム社会科学院文化研究所上席研究員）

【講演者と討論者の自由討論】30分

金賢旭（キム・ヒョンウク：国民大学教授）

平田由紀江（ひらた・ゆきえ：日本女子大学教授）

第3部 質疑応答

【質疑応答】25分

アシスタント：金崇培（キム・スンベ：釜慶大学日語日文学部准教授）

金銀恵（キム・ウンヘ：釜山大学社会学科准教授）

Zoom ウェビナーのQ&A機能を使い質問やコメントを視聴者より受け付ける

【閉会の辞】：徐載鎮（ソ・ゼジン：未来人力研究院院長）

《閉会》午後5時

講演者 小針進（こはり・すすむ） 静岡県立大学教授

1963年生まれ。静岡県立大学国際関係学部教授。専門は現代韓国・朝鮮社会論、北東アジア地域研究。東京外国語大学朝鮮語科卒業、韓国・西江大学校公共政策大学院修士課程修了、ソウル大学校行政大学院博士課程中退。特殊法人国際観光振興会東京本部職員、同ソウル事務所次長、外務省専門調査員(在韓日本大使館勤務)などを経て現職。慶應義塾大学非常勤講師などを兼務。著書に『崔書勉と日韓の政財官学人脈－韓国知日派知識人のオーラルヒストリー』（編著、同時代社、2022年）、『文在寅政権期の韓国社会・政治と日韓関係』（柘植書房新社、2021年）、『日中韓の相互イメージとポピュラー文化～国家ブランディング政策の展開』（共編著、明石書店、2019年）、『日韓関係の争点』（共編著、藤原書店、2014年）、『韓流ハンドブック』（共編著、新書館、2007年）、『韓国人は、こう考えている』（新潮新書、2004年）など。

講演者 韓準（ハン・ジュン） 延世大学教授

1988年ソウル大学社会学科卒業、1990年ソウル大学大学院社会学修士、1998年スタンフォード大学大学院社会学博士。延世大学社会学科教授。ハーバード大学エンチン研究所訪問教授(2009～2010年)。韓国社会科学資料院院長(2011～2015年)。著書に『韓国社会の制度に対する信頼』（翰林大学校出版部、2008年）、『BTSのグローバル魅力ストーリー』（共編著、EAI、2020年）、『第4次産業革命、仕事と経営を変える』（共著、三星経済研究所、2019年）、『大韓民国システム、持続可能か』（共編著、EAI、2018年）、『超高齢社会、組織活歴をいかに高めるか』（共著、クラウドナイン、2017年）など。論文に「社会科学における複雑系研究」（『セ物理』67巻5号、韓国物理学会、2017年）、「韓国の社会移動：現況と背景」（『現象と認識』40巻4号、韓国人文社会科学会、2016年）、「韓国人の生活の質の社会的決定要因」（『国政管理研究』10巻2号、成均館大学校、2015年）など。

報告者 チュ・スワン・ザオ（Chu Xuan Giao） ベトナム社会科学院文化研究所上席研究員

2006年度渥美奨学生。ベトナム社会科学院文化研究所高級研究員。2000年10月来日、2001年4月より東京外国語大学・地域文化研究科博士後期（文化人類学）に在籍し、2007年3月に単位取得退学。総合研究大学院大学・文化科学研究科地域文化学専攻博士（2015年、文化人類学）。

討論者 金賢旭（キム・ヒョンウク） 国民大学教授

1968年生まれ。韓国・国民大学校日本学科教授。専門は能を中心とした日本伝統文化。著書に『翁の生成－渡来文化と中世の神々』（思文閣出版、2008）、「善妙伝説と新羅の信仰習俗」（松岡心平編『中世に架ける橋』森話社、2020）、「和食文化継承のための保護措置と対策」（『日本近代学研究』69、韓国日本近代学会、2020）、「伝統芸能の現況と継承のための模索」（『日本文化學報』90、韓国日本文化学会、2021）など。

討論者 平田由紀江（ひらた・ゆきえ） 日本女子大学教授

1973年生まれ。日本女子大学人間社会学部教授。専門は社会学、文化研究。著書に『한국을 소비하는 일본-한류, 여성, 드라마』（책세상、2005年）、共編著に『ソウルを歩く-韓国文化研究はじめの一步』（関西学院大学出版会、2019年）、翻訳書に『韓国ポップのアルケオロジー：1960-70年代』（月曜社、2016年）などがある。

質疑応答アシスタント 金崇培（キム・スンベ） 釜慶大学日語日文学部准教授

国立釜慶大学日語日文学部日本学専攻准教授。関西学院大学法学部法律学科卒業、延世大学政治学科修士課程修了、同博士課程修了（政治学博士）。専門は東アジア国際政治、日韓関係。著書に『歴史認識から見た戦後日韓関係』、『日韓会談研究のフロンティア』（いずれも共著）など。

質疑応答アシスタント 金銀恵（キム・ウンヘ）釜山大学社会学科准教授

1975 年生まれ。釜山大学社会学科准教授。専門は社会学(都市・文化・環境)及び日本社会論。早稲田大学先端社会科学研究所招聘研究員（2022 - 24 年）、日本学術振興会(JSPS)外国人特別研究員（一橋大学、2016 - 18 年）、ソウル大学アジア研究所アジア都市社会センター選任研究員(2014 - 6 年)。ソウル大学日本研究所客員研究員(2013 - 14 年)、東京大学社会科学研究所客員研究員（渥美国際交流財団奨学生（2011 - 12 年）、日韓文化交流基金招聘フェローシップ(一橋大学、2007 - 8 年)。主要研究は、「1980 年代韓国のスポーツメガイメントと江南づくり(『日本都市社会学年報』 35)」(2017 年)、『危険都市を生きる： 東アジア発展主義都市化と核の危険景観』(2017 年、共同)、『安全社会日本の動揺と社会的連帯の模索』(2017 年、共同) など。